

「変わった宗教との出会い」

Dominika Szmida

ワルシャワ大学日本学科 4年生

皆さんは、神の存在を信じますか？私は信じます。本当の神とはキリスト教の神なのか仏教の神なのか分かりませんが、不思議な存在が人間を守ってくれているのは信じたいし、他の人がそれぞれ信じる宗教を尊重したいとも思います。

二年前、私は台湾に行きました。台湾の小さな村で、小学生に英語を教えていました。ある日、一人の生徒の家族に、昼ごはんに誘われました。その時生徒のお父さんが次のように言いました。「実は、私はこの土地にできた新しい宗教の精神的指導者なのです。」話を聞くと、どうもこの宗教は仏教と道教とキリスト教が混ざったもののようです。最初は面白いと思ったけれど、話が進むうちに雰囲気はだんだん怪しくなってきました。

お父さんは「この村に台風が近づいているのを知っているかい？」とたずねました。私は「はい。ポーランドには台風がないからちょっと怖いです。」と答えました。するとお父さんは、「台風がこの村を通らないようにするには、一つだけ方法がある。皆で祈るのです。」と言いました。しかも、「お祈りの前に、あなたも洗礼を受けなさい。」と言うではありませんか。「でも、私はキリスト教徒なので、他の宗教の洗礼は受けられないんです。」と答えたところ、生徒の家族みんなが私を説得し始めました。

お父さんは、「私は夢の中でイエス・キリストと直接話をして、我が宗教を作ったのです」と言い、お母さんは「この洗礼を受ければ、天国へ行くための8ケタのパスワードがもらえるのよ」と言いました。私は逃げたい気持ちになりました。しかし、ここで踏ん張って、笑顔を作り「私はみなさんの信仰を尊重します。ですから、私の信仰も、どうか尊重してください。」ときっぱり言って、洗礼の話を終わらせました。

当時は彼らに対して違和感を感じ、彼らの信仰を怪しいと思っていましたが、いろいろ考えているうちにだんだん「あの人達も、ただ単に信仰心が強く、本当に村を台風から守りたかっただけなのかもなあ」と思うようになりました。そして、彼らの誠実な信仰心から、大切なことを学びました。それは、他の人の信仰が理解できなくても、決してくだらないと思っただけではないということです。なぜなら、その人にとってその信仰はとても大事なものかもしれないからです。あの生徒の家族も、キリスト教を悪く言うことも、キリスト教徒である私を軽蔑することはありませんでした。もちろん、自分の信仰や信念を他の人の言いなりに変える必要はありません。ただ、皆さんも、他の国の文化や宗教に対して、前向きに理解する広い心を持つようにしたらいいのではないのでしょうか。そこから諍いのない平和な世界が始まるような気がします。